



「まちづくり座談会」の一環で高校生と懇談を実施。日ごろの学生生活で感じていることなど若者の思いが市長に届けられた



2回にわたり開催した子育て世代との懇談会。わが子の健全な成長を願う親からの率直な意見が出された（写真はつどいの広場“たんぽぽ”）

ふるさと 匠の魅力 アッ プ に

子育て世代、高校生と意見交換

魅力ある匠瑛市に向けて市長と対話——。長期的な展望に立った総合的なまちづくりの方針となる「第2次匠瑛市総合計画」の策定に向けて、「ママさん」や高校生を対象とした市民懇談会が開かれました。参加者と市長の対話の中で出された意見の一部を紹介します。

懇 談会はいずれも、2020年度から31年度までを計画期間とする第2次匠瑛市総合計画の策定に向けて、幅広い世代の市民から意見を聴く取り組みの一つとして実施したものです。

談会は、つどいの広場「つくし」で6月19日に、また同「たんぽぽ」で22日に実施。就学前の小さい子どもを持つ親子延べ27人が参加しました。

参加者からは、「匠瑛市の子育て支援は手厚いと思う」や「子どもを産んで育てるには良い環境だと思う」と評価する意見があった一方、「こんな取り組みがあるといいな」とのテーマでは、「子どもと気軽に訪れることができる場」や「子どもの世話を通じて高齢者世代との交流」などを望む声がありました。

また、「将来、こんなまちになっていたらいいな」とのテーマでは、「成長した子どもが帰って来られるようなまち」や「子どもの頃から外国の人と触れ合いや交流ができれば」という意見がありました。

子どもの未来を見据えて

子育て世代を対象とした懇



つどいの広場“つくし”での懇談会。輪になり和やかな雰囲気で見えが出された

いとと思う」と述べ、同校の矢部春之介さん（1年）は、「観光資源の発掘」を本市に足りない点として挙げ、「野菜がおいしいのでレストランでその野菜を使った料理を提供してはどうか」と提案しました。

また、敬愛大学八日市場高校の青野元勇さん（3年）は、自分たちもできる取り組みとして、「海外から人が来た時には学生が案内や通訳もできるので、国際ボランティアが

あれば匝瑳市をもっと知ってもらえるのでは」と自身のボランティア経験を踏まえて提言。同校の江波戸達哉さん（2年）は、市民意見を広く把握する方法として、「匝瑳市をどう良くしていくかや行事などについて、中学生と20〜40歳代、50歳代以上の3〜4階層に聞く」といろいろな意見が出るのでは」と話しました。

この他、「バスや電車の本数を増やしてほしい」「働ける企業の数を増やしてほしい」という意見や、「魅力発信に、ゆるキャラからSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）、動画へと



市内の高校に通う若者を代表して両校の生徒会メンバーが参加



7月12日に開催した匝瑳市区長会との座談会

皆さんのまちづくりに関するご意見・ご提言を市長が直接伺います。開催方法など詳細は、秘書課広報広聴班（☎73・0080）までお問い合わせください。

この他、『自分たちならこんなことができる』とのテーマでは、「空き店舗を活用した、グループでの手工芸品の販売」との提案がありました。

市役所で実施し、県立匝瑳高校と敬愛大学八日市場高校から11人が参加。生徒たちとテーブルを囲み、『市の好きなところ・足りないところ』『魅力あるまちにするためには』などの観点から意見を出し合いました。

高校生が対象の懇談会は、市が行っているタウンミーティング制度「まちづくり座談会」の一環として9月25日に

高校生の対象の懇談会は、市が行っているタウンミーティング制度「まちづくり座談会」の一環として9月25日に



市長の発言に耳を傾ける高校生

発展していくのが良いのでは」とする提案もありました。

* * * * *

紹介した懇談会の内容に関しては、企画課企画調整班（☎73・0081）までお問い合わせください。

なお、高校生との懇談会の議事概要（出席者および市長の発言）は、市ホームページ「タウンミーティング」のページで紹介しています。

「まちづくり座談会」を開催してみませんか